

あの頃のことを是非とも書き残しておこう。誰のためではなく自分自身の存在確認のためだ。なかなかその導入部は難しい。70年も前にもなると当時の語り部は自分以外にいないようである。歳月ははるかに早く流れ去った。私の誕生を喜んだ母親の背中
の感覚や懐に大切に抱かれて乳房をまさぐった両手の記憶も全く忘れ去った。



中国で生まれた

私は中国山東省の青島市で1942年9月6日に生まれた。父親は亀谷外六治(トムジ)と呼び、薬学を専攻し薬剤師として第一製薬会社に勤務していた。トムジは25歳の若さで外地勤務を命ぜられ華中の青島支店を任されていた。母親は田村トミと呼び富山市出身で、1939年に富山高等女学校



を卒業したばかりで、まだ19歳の若き乙女であった。二人は1941年に富山市で結婚してトムジの駐在先である青島市に住むことになっていた。

結婚式の写真は手元にないが、知人の話によれば盛大な式で多くの出席者で賑わったそうだ。富山市で古くから醸造業を営んできた素封家、その田村家の長女の結婚式であつたから町を挙げての祝い事になったのだろう。美人であるトミの花嫁姿は実に輝いていたに違いない。写真右は青島神社で初参りに写したもので私を抱いているのが



母の姉妹、次女のすみ子である。すみ子はトミの産後の手伝いを兼ねて青島に来て

くれた。トムジは軍服に似た当時の国民服を着ている。1941年に太平洋戦争は始まっていたから、私たちは戦乱の時代を生き抜くことになる。

母親のトミ

田村家の当主はトミの母親であるシカという人物だった。父親は田村家に入り婿した滋次郎である。田村家の二人に



はなんと5人もの女子供を授かった。トミはその長女であった。写真右はお稽古事に励むトミの姿で、お琴を弾くことが大好きだった。写真左は5人姉妹のもので左から三女美智子、長女トミ、五女和子、四女文子そして後ろは次女すみ子である。この写真はトミが富山高等女学校に入学した頃であるからトミ17歳である。トミの生まれは1921



年9月16日である。その後1937年には日本と中華民国の間で盧溝橋事件が勃発し、日中戦争がはじまった。当時はそれを支那事変と呼んでいた。やがて1941年になるとハワイ真珠湾奇襲が起こり太平洋戦争へと泥沼の戦いが継

続していった。

父親の外六治

不思議な名前であるが外六治(トムジ)と読む。トムジは教育者の家系である亀谷家の6男坊として生まれた。長男と次男が早世した結果、三男の統三が年長で、続いて四郎、長女ふみ子、トムジそして順七と順番に続く。それぞれ兄弟



は高等教育を受けて統三は医師、トムジは薬剤師、順七は師範学校教師となり、長女は金沢の親戚筋にあたる弁護士に嫁いだ。亀谷家は富山県でも名門一族であった。祖先は常願寺川の上流の立山連峰の山麓、粟巣野近くの谷間、亀谷という土地を支配する地侍であった。越中は山間部も多く戦国期まで群雄割拠する国柄であり、一向宗など独立志向の宗教勢力も強かった。17世紀になり加

賀の前田家が越中まで治めると安定し、その分家の前田一族十萬石の殿様が近世まで富山地方を統治した。亀谷家は越中国主の前田家に従い国侍として仕え、出城のあった高岡城で医師・教師などに従事した。代々一門の連れ合いを加賀に求めて亀谷家を継がせていった結果、亀谷家の親族は加賀や高岡との関りが深い。トムジだけが富山市の名家から嫁を娶ったことになる。加賀は百万石、越中は十萬石であったから格式が違うと越中者を近世まで差別されたのである。

トムジとの結婚

1941年春にトムジとトミは結婚した。二人の出会いは、知人からの紹介による見合いである。二人が結婚した年



齢はトムジ25歳(推定)でトミは19歳であった。結婚式の写像是残っていないが二人とも美男美女のカップルであったから地元では大層な評判であったと聞く。写真右は結婚の翌年1943年に富山に里帰りした時に写したものである。私は一歳半の健康優良児で重かった。トムジはひ弱な文学青年のようでトミが寄り添って優しく支えている。新婚旅行はトムジの勤務先の中国の青島であった。二人の旅は富山から鉄道で神戸に出て、そこから客船に乗船して早

春の瀬戸内海を行った。まるで瀬戸の花嫁を娶ったような華麗な船旅であった。二人を乗せた関西汽船の客船は瀬戸内海を抜けて関門海峡を通り、対馬沖から東シナ海を北上して遼東半島の旅順(大連)に到着するというコースだった。旅順からは満州鉄道の特急アジア号に乗り新京(長春)を経て華北の北京に向かった。豪華な食堂車もあり長旅であってもトムジにとり美しい新婦トミと一緒に旅であるから毎日が幸福であった。のんびりとした新婚旅行で青島市まで3日もかけた。19歳のまだ女学生のようなトミにとり、外地の長旅はさぞかし心細く寂しい思いだったに違いない。これから新婚生活を中国で過ごすという不安な気持ちで落ち込んでいた。そんなトミをトムジは毎晩温かく抱きしめた。その船旅中にハネムーン・ベビーとして私は生を授かったようだ。

亀谷一族



写真は、私が生まれてから富山に里帰りした折に映したものであるから1943年のものと思われる。叔父の亀谷順七が出征する祝いの席で撮られたもので親類の面々が鮮明に写っている。左後からトミとトムジ、抱かれているのが孝。その右は四郎叔父と抱かれているのはタカシ(私と同じ名で早死)、次は靖子(統三叔父の娘)そして統三叔父の奥方の芳子である。前列の



左から亀谷家の母上(名前不明)、その左は順七叔父の奥方(名前不明)そして中央は順七叔父である。彼は陸軍少尉として従軍した。その軍刀を誇らしく持っているのが従兄の孟(ツトム)である。彼は四郎叔父の長男である。そして亀谷家の長老である叔父で、分家筋で磯部の亀谷と呼ばれていた人物である。左は四郎夫人でその膝にのっているのが禎子(四郎叔父の長女)である。この写真には統三叔父の姿が見えないが、彼は仏印(ベトナム)に従軍中でハノイに駐留して軍医の仕事をしていた。この古い写真を見直すと亀谷一族は、右下の加賀出身の祖母に似た美男の家系であることがよく判る。写真右の統三はダニー・ケイに似た顔で西欧人のようでもあり、後ろの芳子は金沢では有名な美女だった。

女系家族の田村家

トミは富山市の神通町で醸造業を営む田村家の5人姉妹の長女であった。醸造業は、発酵菌に



よる発酵作用を利用して、酒などの飲料や醬などの調味料を製造する。工場には大きな味噌樽や醤油樽が置いてあり、麴と醤油の匂いで満ちていた。田村家の姉妹は、近所でも評判な美人揃いで中でも長女トミが才色兼備で最も素晴らしかった。田村家は代々地元で味噌醤油造りを家業としてきたから大きな工場を持ち、使用人も多く、



酒屋も開いていたのでいつも人々の出入りで賑わっていた。家業の経営は母親シカが全てを握っていた。なかなか商魂ある女傑であった。シカは婿殿、滋次郎を親類筋の山田村から迎えて田村家を受け継いだ。滋次郎は一滴の酒も飲めない生真面目な人物だった。シカと滋次

郎との間に生まれたのが5人姉妹である。シカは終戦の年1945年8月4日の富山空襲で焼夷弾の破片が当たり亡くなった。8月16日の終戦まで後一週間という時で、悔やまれる死去である。シカは5人の娘達から自分達の母親なのに、「おシカさん」と愛称で呼ばれ愛され尊敬されていた。私はシカ祖母の顔は覚えていないが、孝が初孫で男子であったから、シカは私のことが大変自慢で大切に育てられた。叔母たちから毎度聞く私のエピソードは、幼少2歳の孝が里帰りの折に台所でご飯の入った大きな御櫃の中に小さな片足を入れて得意になったこと。米粒だらけで、よちよち歩き回った可愛い姿である。シカは頼もしい赤子の幼い動作を見て、将来は大物になるといって大笑いしたそうだ。5人姉妹だけで女系家族の田村家に初めて授かった男子だった。世間は刻々と日本の戦局は悪化していたが、シカは孝の姿を見ているだけで幸福であった。